
超国家組織と高校生

恭啓

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

超国家組織と高校生

【Nコード】

N7092Y

【作者名】

恭堯

【あらすじ】

樋口達の通う私立逐栄高校は全寮制で男子部と女子部に大きく分けてしまう程大きな学校だ。別に有名な高校って訳でもなく、目立った所も特に無し！鬼の編集長鳴海に忍者の奥田^{オタク}に、何の特徴もない樋口と、その愉快的仲間達の高校生活。

一人の転校生によって体験できないような事が色々起こっちゃう！

プロローグ

樋口は目覚まし時計の五月蠅い音でようやく起きた。

樋口は時計を見た。

5時30分

「・・・やば・・・電車に乗り遅れる・・・」

樋口は寝ぼけながらも階段を下りる。

母親の作って置いたご飯を数分で食べ終わり、樋口は家を出て行った。

「・・・いかん・・・寝不足だ・・・」

一昨日から映画を永遠と見ていた樋口の目に朝の日差しは痛かった。最初は2本だけ見て終るはずだったが、映画の続編が既に出ていることに気づいて急いで借りに行ったついでに気になる映画を18個ぐらい借りてしまったのだった。

で、結局の所二日間一睡もしていない。

早朝の駅前はあまり人はおらず、駅員が居るぐらいだった。

樋口は運賃表を見上げた。国立まで350円。

「また運賃上がったのか・・・？」

樋口は切符を買いながら言った。

「よー、樋口君、おはよう」

樋口は聞き覚えのある声に後ろを見た。

「ああ、大輔か。この時間帯に居るとは珍しいな。もう行ったかと思つてたよ」

「理由は先程までゲームをしてた。それで電車に間に合いそうになかったので自転車ぶっ飛ばしてここまでやってきた。・・・って、国立までの運賃上がってないかい？」

「気のせいだと思っている。と言うか値段はいつかは上がるもんだろ」

二人は切符を買って電車に乗った。

「んー！久しぶりの登校だなあ！」

樋口達の通う高校は私立の逐栄高校。敷地が馬の鹿のように広く、男子部と女子部に大きく分かれている。県でも有数の有名校だ。さらに全寮制で遠いところに住んでる人には便利な学校だ。

「そういえば、柳に奥田に遠藤は？」

「柳と遠藤は親が送ってくれるだよ。奥田は走ってくるとか言ってたな」

「んだと？奥田の実家って山奥の……」

夏休みに一回奥田の実家に遊びに行ったのだが、中々到着できず、一晚を山の中で過ごし二日目の早朝ランニングしている奥田に見つかり、二時間かけて奥田の実家に到着したのだった。

奥田の実家から高校まで3時間はかかるはず。それを走って来るとなると相当時間がかかる。

「なんか修行とか言ってたな。それに奥田の家って車ないじゃん？それに道も整備されてないし……」

「柳の家が一番近いはずなんだが、途中で拾って貰えないのかな」

「さーてね。ま、奥田の事だ。遅刻はしねえと思うよ」

とか、話してたら学校に一番近い駅に到着した。

樋口と大輔は2週間駅前の駐輪場に放置してた自転車に乗った。

「一つ聞いていいか？」

「ん？」

「お前自転車何個持ってるの？駅に来る途中も自転車使ったんだろ？」

「ああ、駅に来るときに使った自転車は拾い物」

「……泥棒」

「うるせー・・・って、見覚えのある人」

大輔が指差す方向を樋口を見た。二人の女子が駅から出てくる。

大輔が誰かを確認すると、急に自転車から降りて姿勢を低くした。

「お前もしゃがめ！アレは、編集長だ！」

「え？鳴海編集長？」

樋口は頭だけを道に出し、歩いている女子二人を見た。

新聞部の編集長の桜井鳴海と見たこと無い女子と一緒に歩いていた。

「どーする？」

「遠回りしてでも編集長より先に学校に到着する！」

「遠回りって・・・まさか、学校の裏山を通るんじゃないかな？
自転車で」

「そのまさかだ」

と言って、大輔は自転車をぶっ飛ばした。

「ちょ、待てって！」

樋口も続いて大輔をぶっ飛ばした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7092y/>

超国家組織と高校生

2011年11月21日11時41分発行